

タワーズワトソン・インベストメント・サービス株式会社
大海 太郎

第3回「投資で騙されないために」

「投資で騙されないために」

最近、「月3%の配当」と称して460億円もの資金を集めた詐欺事件が報道された。今回のような事件は後をたたないが、果たして防ぐことはできないのであろうか。年金基金の運用担当者はもちろんのこと、個人の皆さまもこのような事件から自身を守るためにどうすべきかを考えてみたい。

まずは月並みであるが、「うますぎる」話は疑ってかかるべきである。マイナス金利の時代に「月3%（年36%）」の利回りはどうして可能なかを納得いくまで説明を受け、検証することは必要不可欠と言える。

2番目は、理解できないものには投資しない、という原則である。きちんと投資の中身を確認し、収益の源泉はどこにあるのか、どのようなリスクがあるのか、そしてこれらの対価としての報酬は合計でいくらになるのか、を全て理解した上で、投資を決めるべきである。

世の中には一見（利回りが高い等）魅力的だが、わかりにくい投資商品が蔓延している。複雑にすることによって、リスクが理解しにくくなったり、報酬が割高かつわかりにくくなって、投資家にとって望ましくない商品となっていることも多々ある。よく理解できない投資商品であればいかに金融機関が素晴らしい商品ですと売り込んで来ても、手を出さないことが賢明である。

3番目はやはり投資に関する知識と経験である。1番目の「うますぎる」かどうかはある程度、常識でも判断できるが、知識と経験があれば「うますぎる」度合いを適切に判断できる余地が広がる。また、2番目に述べた理解については説明するまでもなく、知識や経験によってその対象と範囲は大きく異なってくる。

以上が今回のような事件に巻き込まれないための必要最低限の原則である。投資の場合、安全一辺倒では必要な収益を手にすることもできない。その意味では必要な投資のリスクを取ることが重要だが、最後は自己責任となることを肝に銘じて、ご自身できちんと理解し、判断して投資を行っていただきたい。